東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2009年3月20日

イスラームとお金

親愛なるムスリムの皆様。現金は、過去においても現在においても経済の不可欠な要素です。ちょうど、実在の世界に存在するすべてのものの同様、お金も人の生活を容易にし、幸福にするための一つの媒介に過ぎないのです。

「お金」を合法な道で働くことによって手にすることは、誠実なムスリムにとって最も重要な努めの一つです。事実イスラームでは、人を騙すこと、盗むこと、闇市場、そして利子は疑いの余地すら残さない形でハラーム（禁止されているもの）とされているのです。

お金を稼ぐ際には、そこに不正な利益が含まれる可能性が常に存在します。この疑いを解消するために年に一度、財産の４０分の１をザカートとして支払うことが義務とされているのです。クルアーンによると、所持しているお金もしくは財産には他の人の権利があるのです。その対象者は貧困者、誇示、路上で行き場をなくした人、借金に苦しめられている人、自然災害に遭遇した人という形でまとめることができるでしょう。イスラームは、他者や社会に対する援助を、見返りを求めることなくただアッラーのご満悦のみのために行なうことを命じ、勧めています。従ってアッラーのご満悦を得るために行なわれる援助、与えられる施し、そしてあらゆる種類の物質的支援はある意味で天国を買う要因となるのです。

経済学者たちはより豊かな生活を送るために、お金が経済において活用されること勧めます。この観点から見るなら、クルアーンがお金をアッラーの道のための援助に用いず、動かされることのない資産として貯めこみ、保持している人々に警告を与えていることは非常に興味深いことでしょう。

親愛なるムスリムの皆様。イスラームは、お金（資本）、子供、そして保持しているあらゆるものを試練の媒介と見なしています。豊かな人はその豊かさによって、貧しい人はその貧しさによって試練を受けているのです。人はその財産をどこに、誰に、何のために費やしたかを問われます。なぜならその財産、資本は信託としてその人に与えられたものであるからです。貧者であれば、その貧しさを克服するために努力したかどうか、アッラーに対し不満を抱いていたかどうか、自らの状況から救われるために不正な手段を用いたかどうかが問われるのです。

また、お金や現世の富が決して人を満足させないということも語られています。実際、預言者ムハンマドは「人に、一つの谷を埋め尽くすほどの財産があったとしても、彼は二つめを求める」といわれています。言い換えるなら、人はどれほどの財産を持っていたとしても、その本質としてより多くを求めるものなのです。だから自覚を伴ったムスリムは、持っているもので満足することを知るべきです。現世と来世のバランスをうまく保ち、欲望に溺れ現世のために来世を台無しにしないようにしなければならないのです。

近代に入り、お金による試練の形はますます増え、そしてより困難なものとなっている時代にあって、お金への態度や振舞いをもう一度点検することをお勧めします。お金があなた方を地獄ではなく、天国へと近づける媒介となりますように。